

第6学年学級づくり骨格案

2002年4月1日 梶田

＜学級経営の目標に据えたい子どもにつける力＞

問題解決力・思考力・表現力・企画力・意志力・自己学習力

学級経営方針（仮）

*明るく温かく、活力あふれる学級づくり

- ・指示待ち型の風土を排除する。そして、子ども自らが自分たちの学級の問題に取り組んでいけるような場の設定を行っていく。
- ・学級及び個人の実態を把握することに努め、特別活動・道徳・日常の活動を通して、好ましい人間関係をつくる。
- ・一人ひとりが〇〇小のリーダーとしての自覚を持てるようにする。そのために、認め合う場を多く設定する。
- ・家庭生活・校外生活についても情報を求め、保護者との連絡を密にして、いろいろな面からの児童理解を図り、心豊かな子どもの育成に努める。

*一人ひとりが主体的に取り組み、互いに高め合う授業づくり

- ・基礎的、基本的な学力を身につけさせる。そのための方略を工夫する。
- ・学び方を育てることをメインとした学習指導を行っていくとともに、子ども同士が学び合う姿勢を大事にしていく。
- ・豊かな表現力を育成するための指導を工夫する。

めざす子ども像

- ◎課題意識を持って、進んで学習に取り組む子ども
- ◎自分の学習課題や生活課題に気づき、自分の力で考える子ども
- ◎自分の考えを持ち、その思いを表現できる子ども
- ◎いつも前向きの姿勢で新しい考えを作り出せる子ども
- ◎よりよい自分、よりよい学級をめざして積極的に取り組む子ども
- ◎高学年としての自覚を持ち、お互いのよさを認め合い、相手の立場に立って人に接することができる子ども

学級づくりの骨格

1 子どもとの出会いを演出したい！

その1：「何かが違う」という思いを抱かせる。

不安がいっぱいのこの日、子どもたちを「ハッ」とさせたい。ワクワク感を高めさせることをねらう。

その2：「こんな学級にしたい」というイメージを持たせる。

子どもたちの思いをもとに「学級のイメージづくり」をする。みんなのためにしてほしいことと、してはいけないことを示す。

その3：「自分たちでできそうだ」と思う組織をつくる。

学級を動かす組織づくりで、係や当番など。めざすは自主的な組織づくり。

その4：「楽しいことがありそうだ」という期待感を与える。

最終のゴールとしての学級目標を決める。そのゴールめざして一人ひとり

に何ができるかを考えさせるための手がかりづくりである。

※学級は自分たちのものであり、これから1年間、自分たちで学級をつくっていくことができることを話す。先生は、その手助けをする役目であることを話す。

2 個性的な学級目標を決める！

- ① どんな学級をつくりたいかを子どもの願いを聞く。
- ② すべての言葉を整理して、キーワードをつくる。
- ③ 学校目標とのかかわりでスローガン風にまとめる。
- ④ 学級のマスコットをつくりたい(子どもが描ける場合はまかせる)。
- ⑤ 合わせて、歌や旗をつくってもいい。特に歌にはこだわりたい。可能であればオリジナルに挑戦。

3 係活動は子どもたちの発想を生かしたものにす。

- ① 自由に活動できる組織をつくる。
- ② 学級目標を意識させ、学級をよりよくしていくという意識を育てる。
- ③ 子どもの活動を支える時間・場所・道具の保障に努める。

4 責任感を身につけさせるための当番活動を行いたい。

- ① 必要な仕事を洗い出し、全員で分担する。
- ② 一人一役を原則としたい(二人で一つの当番もあり)。
- ③ ネーミングを工夫させる。
- ④ 自己評価を取り入れ、磁石で表す。

5 社会科(歴史)学習で問題解決力を育てたい。

- ① 子どもがつくる課題を大切にし、課題解決的思考を重視する。
- ② 教材研究も徹底して行い、体験的活動を取り入れる。
- ③ 学ぶ力のうち、関係づけて考える力と、資料活用力(特に読み取り力)を鍛えることをねらいとする。
- ④ まとめは單元ごとに新聞づくりで(1年間常設掲示する)。
- ⑤ 歴史学習が毎年ずるずると長引いていたので、本年度は焦点を絞り、メリハリのきいた授業づくりに挑戦したい。

6 学習ノートの使い方を指導して、思考力を育てたい。

- ① 「思考の作戦基地」と位置づけて、自分の考えを書くことを奨める。
- ② ノートの書き方を指導。
- ③ 工夫のあるノートは、学級通信で紹介する。

7 学習の基礎となる諸能力を身につけさせることをねらいとして、朝学の時間などに遊び感覚で取り組ませるショートタイムを行う！

- ① 学習の基礎となる諸能力を明らかにする。
- ② 表現力を身につけるための取り組みを行う。
 - *短作文用紙を作成する(学級専用の用紙)。
 - *楽しい短作文題材を集める。
 - *作品主義から多作主義へと転換する。
- ③ 思考力を身につけるために

*自学のヒントになるようなことをテーマとして選び、楽しみながら学習を進められるように工夫する。

④ 学習内容と関わりのあるテーマを選ぶ。

8 学級通信を書きまくる（A4ファイル）

① 不定期便として教師の思い、子どもの様子、親の願いを書く。

② ねらいは「学校と子どもと親の架け橋づくり」「子どもの思い出づくり」「学級経営の記録」

③ 卒業時に製本するため、ファイルを渡し保管するよう依頼。

④ 親からの投稿も歓迎したい。

⑤ 目標は200号

9 「まちがい」を生かして、「まちがえたこと」は大切なことであることを指導していく。

① まちがいを積極的に授業で生かすようにする。

② まちがいが役に立った例を学級通信で紹介する。

10 家庭学習では自学を重視して、自分からやる習慣をつけさせるぞ。

① 1学期はメニューを作成し、毎週配布する。

② コーナーや学級通信で紹介する。

③ 学習内容と関連をもたせたメニューを作成する。

④ 2学期からは自由に取り組ませる。

⑤ 連続50日（チャレンジ50）に挑戦させたい。

11 書く場と話す場を設定するぞ。

① 授業に書く活動を取り入れる。

*自分の考え（書いて発表） *友達の見解 *授業作文

② スピーチ活動を行う。

*テーマは与える。

*初めは、学級に自由に話せる雰囲気づくりのために、思いっきり座談会を行う。

*最初は30秒程度からはじめる。

*わくわく討論会や遊び感覚を取り入れたスピーチ大会に取り組む。

12 学期末には子どもによる教師の評価に取り組む

① 子どもたちから教育の方法などについて評価してもらおう。その観点は子どもに任せる。

13 楽しい授業づくりに全力を尽くす（体験／興味・関心）

① 子どもたち発の課題づくりに取り組む。

② 解決（追究）する喜びのある授業づくりに心がける。

③ プロセスを大切にしたい授業づくりをする。

④ 指導と評価の一体化をめざした授業づくりを行う。

⑤ 教材研究を充実させると同時に体験的活動を取り入れる。

14 漢字の力・計算の力は鍛え上げたい

① 一日一字を目標に、漢字の練習（積み上げこそ力なり）。

② ユニット学習で継続練習の時間を取る。

- ③ 漢字ミニテスト，計算ミニテストを計画的に実施する。
- 15 教室掲示には一工夫を加えるぞ
- ① 社会科新聞コーナー……クリアシートに入れていく
- ② 係活動コーナー……新聞係と飾り係のために
- ③ 自由学習コーナー……自由学習を紹介していく
- ④ イベントコーナー……イベント計画書を貼っていく
- ⑤ 学級会コーナー……みんなから出された議題を貼っておく
- 16 心のメモ（B6ファイル）を1年間続ける。
- ① 毎日書かせる。
- ② 学級通信で紹介する（偏りがないように名簿に記録をとる）。
- ③ 光る表現を見つけ積極的に評価し，表現力の充実に活用する。
- ④ 心の有り様を書かせ，子どもたちの相互理解を図るために使う。
- 17 総合的な学習では，次の内容に取り組む。
- ① 平和学習
* 修学旅行を核として単元を組む。
* 節目において授業を行う。
- ② 国際理解教育
* 外国の人に来ていただいて交流学习を行う（山口大学との交流）。
* 他の国について調べ学習を行う（社会科）。
- ③ 地域学習
* 平川についてテーマを絞って調査活動を行わせる。
* 提言という形でまとめさせ，地域に発信する。
* 足で調べる活動を重視する。
- ④ 健康教育
* 健康診断発の単元を仕組む。
* 性教育もこの中に位置づける。
* 養護教諭と協力し合って実践する。
- ⑤ 研究会活動（B4ファイル）
* 一人一研究を進める。協力活動も認める。
* 経過報告会や研究発表会を行う。
* 夏休みにも自由研究に取り組みさせる。
* 卒業論文発表会を行う。
- 18 子どもの「よさ」を生かして，オンリーワンをめざす！
- ① 学級目標とのつながりを考えて，子どもの「よさ」をほめる。
- ② 帰りの会での「今日のがんばり」発表をする。
- ③ 一人ひとりがオンリーワンを目指せるように支援する。
- ④ 一人ひとりのよさが生かす場を工夫する。
- 19 1年間の足跡の記録を残す！
- ① 学級の歩みの記録
* パソコンで記録していく（教師）。
* まとめたものを卒業文集の1ページとして綴じ込む。

- ② 俳句で残す
 - * 季節や行事ごとに俳句を読ませたい。
 - * 読み人のペンネームを考えさせる。
- 20 卒業記念CDづくりをやる。
 - ① 卒業記念にCDを作成することを考えて、デジカメで記録を残していく。
 - ② 一人ひとりにHP形式でつくらせる（はっぴょう名人を活用）。
 - ③ 全員の作品を一つにまとめてCDに焼く。
- 21 言い出しっぺ実行委員会システムを機能させる。
 - ① 「自分たちの学級は自分たちの手で作ることができる」ことを実現させるための組織として位置づける。
 - ② 子どもの発想を生かしたものを積極的に取り入れる。
（教師からの仕掛けも積極的に行う）
 - ③ めあてを大事にする（何のために行うのか？）。
 - ④ 企画用紙を準備し、自分たちの力で企画できるようにしていく。
 - ⑤ 発案されたものは掲示しておく（終わったものには花マーク）。
 - ⑥ 実行委員による企画・計画・運営を行い、実行後解散する。
 - ⑦ 話し合い活動の充実をめざす。（B5ファイル）
 - ⑧ 全校活動へのかかわりを大事にする。
- 22 教室に音楽を取り込む
 - ① ヤマハポーターサウンドを教室に置く。
 - ② アコースティックギターを持ってくる。
 - ③ 卒業までに歌を作る・・・卒業式で歌いたい。
 - ④ 朝の歌を継続させ、歌詞をファイル化させる（B5ファイル）
 - ⑤ 歌うことによって、心の解放を図りたい。
- 23 ツーウェイ通信というものを発行する。
 - ① 子どもの実態から出てきた課題について、それぞれの考えを書かせる。
 - ② 自己の発露をねらいとして取り組ませる。
 - ③ 子ども発のものができればグッド！
- 24 全員にリーダー体験をさせたい。

さまざまな場を使ってリーダーシップとフォロアーシップを育てたい
- 25 自己有用感を育てるための授業づくりをする。

ふりかえり活動（分かる・うまくなる・自信を持つ・達成する・支え合う・認め合う・役立つ）で「やればできる体験」を積み上げていく（とにかくほめる）。